

Toho

東 邦 キ ャ ン パ ス

Campus



愛知東邦大学
AICHI TOHO UNIVERSITY

vol.144

2026年(令和8年)7月 発行

発行 学校法人 東邦学園 〒465-8515名古屋市長東区平和が丘三丁目11番地 TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

HP [東邦学園](#) [愛知東邦大学](#) [東邦高等学校](#)

特集

東邦高校に大上雄示校長が就任 未来に向け理系の学び取り入れて



東邦高等学校の第18代校長に、大上雄示(おおかみ・ゆうじ)教頭が就任しました。初代・大喜多寅之助先生から始まった校長というバトンを、藤本紀子先生から引き継ぎました。

大上校長は、東邦高校では、当時設置されていた商業科の教員としてスタートしました。その後、学科改編に伴い社会科を担当していました。部活動では、経理部の顧問を引き受けていました。

未来につながる学びに期待を込めて、榊直樹・東邦学園理事長が大上校長と対談しました。



榊直樹・理事長 本日はお忙しい中ありがとうございます。まず、新校長に就任された今のお気持ちを聞かせて下さい。大上先生は51歳、もし人生をもう一度やり直せるとしたら、また教員を選びますか。

大上雄示・校長 教員という仕事には大きなやりがいを感じています。ただ、もし別の道を選ぶとしたら……と考えることもあります。例えば警察官。サイレンを聞くと胸が高鳴るんです。昔から何事にも興味関心が強く、気になることはすぐ調べる性格で、JRの切符売りにも憧れました。地理が好きで、切符を通して「この人はどこへ向かうのか」を知るのが面白いと思っていました。

榊理事長 何でも面白い、いいですね。普段の穏やかな印象からは意外です。では、教員を志したきっかけは？

大上校長 高校3年の時に教員になりたいと思いました。商業高校(=富山県立富山商業高校)で簿記に打ち込み、部活動の経理部では運動部並みに毎日鍛えていました。簿記は自分に合っていて、大学は経営学部を選びました。東邦の採用試験でもその経験が大きく生きました。卒業生から「簿記をやっていてよかった」と言われると、本当に嬉しいですね。

私は生徒たちに「夢は変わってもいい、でも夢を持ち続けてほしい」と伝えています。自分の進路を考える過程で迷うことは自然なことですし、変化を恐れず前に進んでほしいという思いがあります。

榊理事長 その言葉は東邦の生徒にとっても合っ



ていると思います。では、東邦に来たときの第一印象はどうでしたか。

大上校長 まず女子が多いことに驚きました。私自身は男子クラスで過ごしてきたので、ルーズソックスのギャル文化も新鮮でした。生徒たちがとにかく伸びやかで、生命力が全開という印象でした。

榊理事長 私も同じ印象を持ちました。生徒たちが「生きていることが楽しくて仕方ない」というエネルギーを放っていた。これは学校が意図して作れるものではなく、自然に育まれた文化です。東邦の魅力はまさにそこにあると思っています。では、その「楽しさ」はどこから生まれていると感じますか。

大上校長 生徒が明るくのびのびしていること、そして先生との距離が近いことだと思います。生徒の「やりたい」という気持ちを先生がまず受け止め、相談に乗る文化がある。私の母校は130年前に始まった校風を引き継いでいたのか、先生と話す機会はほとんどありませんでした。東邦に来て「こんなに距離が近いのか、校風が違うな」と驚きました。

ただ、私は生徒と友達のように接するのではなく、一定の一線は大切にしています。

榊理事長 その「一線」は教育においてとても重要です。生徒の自主性を尊重しつつ、教師としての立場を保つ。そのバランスが生徒と教師との信頼関係を支えているのだと思います。私学ならではの良さも感じますか。

大上校長 先生が「やりたい」と思ったことに挑戦できる環境があることです。補習でも学年



企画でも、まず「やってみたら？」と言ってもらえる。公立では難しい柔軟さが東邦にはあります。

榊理事長 先生が挑戦し、生徒が挑戦し、学校全体が前向きに動く。その積み重ねが東邦の魅力を作るのだと思います。

大上校長 まさにその通りです。たとえば1年生の普通コースで取り組んでいるクエストカップに代わる新しい探究活動の提案があり、今まさに検討しています。東邦には挑戦する先生が多く、次々と新しい発想が生まれます。

榊理事長 そうした環境で育つ生徒は、どんな社会人になっていくと思いますか。

大上校長 東邦の生徒は「自分で考え自ら行動する、他者と共に歩む、強い心で挑戦する」力を身につけて卒業していきます。これは本校が大切にしてきた生徒像であり、これからも変わりません。自分の力で未来を切り開く姿を期待しています。

榊理事長 私は人種や文化の異なる人と人をつなぐ「架け橋」という言葉を大切にしたいと願っています。世界の分断を嘆くのではなく、違いを認め合いながらつながっていく方向

を絶えず探し続ける姿勢です。東邦の生徒には、自ら動き出す力を身につけてほしい。そして、15年後の社会を見通すと、時代の変化に合わせて理系分野の学びを強化していく必要があります。

大上校長 生成AIの急速な普及で、文系の仕事は大きく変わります。東邦は文系中心の学校ですが、これからは理系の学びも取り入れ、卒業後の進路にしっかりつながる教育を整えていきたいです。社会の変化は激しく、今までの延長線上だけでは生徒を守れません。東邦で学んだ生徒が、未来の社会で確かな居場所を得られるようにしたいと思います。

榊理事長 その通りです。学校は「楽しい」だけでは不十分で、未来につながる学びを提供しなければなりません。東邦は100年以上の歴史を持つ高校ですが、伝統を守るだけでなく、変革を続けることが使命です。校長として、その舵取りをぜひお願いします。

大上校長 はい。東邦の良さを守りながら、新しい時代に必要な教育を取り入れ、生徒一人ひとりが未来へ踏み出す力を育める学校にしていきたいと思います。



特集 大学創立25年

テラーメイド教育さらに

学長 鵜飼 裕之

愛知東邦大学は、本年、創立25周年という節目の年を迎えました。これまで本学を支えて頂きました同窓生、後援会、地域・産業界の皆さま、そして学校法人東邦学園に関わるすべての方々に心より感謝申し上げます。

本学の歩みは、1965年に開設された東邦学園短期大学に始まります。その後、時代の変化と地域社会の要請に応えながら教育環境を整備し、2001年に愛知東邦大学として新たな一歩を踏み出しました。爾来、経営学部、人間健康学部、教育学部を中心に、建学の精神「真に信頼できる人格の形成」のもとに、多様な教育研究活動を展開してまいりました。

さて、現在、大学は少子化に伴う18歳人口の減少に加え、デジタル化、グローバル化、ソーシャル化といった社会・産業構造の急速な変化に直面し、大きな転換期を迎えています。このような状況の中で持続的な発展を実現するためには、単に規模の維持・拡大を目指すのではなく、本学ならではの強みや特色を明確にし、社会や受験生から選ばれる大学として新たな価値を創造していくことが求められます。

そのためには、教育改革を通じて教育の質を一層高めることが不可欠です。そこで本学



では、長期ビジョン「AICHI-TOHO NEXT CHALLENGE 2030」のもと、2026年度から始まる第4期中期計画において、大学のリブランディングを重点戦略とした教育改革を推進します。その核となるのが、建学の精神と、本学の教育コンセプト「オンリーワンを、ひとりに一つ。」です。この教育理念に基づいて、本学では、学生一人ひとりの個性や成長に寄り添う「テラーメイド教育」をさらに発展させ、それぞれの可能性を最大限に引き出すことで、本学ならではの教育価値を高め、新しい時代にふさわしい魅力ある大学づくりを進めてまいります。

そして、それを実現するために、ハードとソフトの両面での教育環境の整備を進めています。ハード面では、特色ある学びと連動した活動の場として、2028年の完工をめざしキャンパスリニューアル(新棟建設)を推進しています。ソフト面では、DXやAIツールを導入し、学生の学修行動記録(TOHO Compass)や学習履歴分析を進化させ、スマートフォン等で学生自身が成長を可視化、実感できる先進的なICT教育システムを構築してまいります。

また、本学では地域社会や産業界との連携を重視し、企業・自治体・地域団体と協働したプロジェクト型教育を積極的に展開しています。実社会の課題に向き合い、多様な人々と協働しながら学ぶ経験は、学生たちに実践力と社会的視野を育みます。こうした教育は、これからの予測困難な社会において、自ら考え行動できる人材育成につながるものと確信しております。

愛知東邦大学は、これからの25年に向けて、不断の改革と挑戦を続けてまいります。皆さまにおかれましても、本学の新たな歩みに引き続き温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

5400人余が社会へはばたく

愛知東邦大学25年の歩み

1923(大正12)年	東邦商業学校 開学
1965(昭和40)年	東邦学園短期大学 開学
(以上、前史)	
2001(平成13)年	A棟 竣工 東邦学園大学 開学 地域ビジネス学科 開設
2002(平成14)年	地域ビジネス研究所(現・地域創造研究所)設立
2007(平成19)年	C棟 竣工 日進グラウンド(サッカー場 野球場)竣工 愛知東邦大学に改称 人間学部人間健康学科・子ども発達学科を開設
2008(平成20)年	東邦学園短期大学 閉学
2014(平成26)年	教育学部子ども発達学科を開設 愛知中小企業家同友会と産学地域連携基本協定を締結
	L棟 竣工
2015(平成27)年	名古屋市名東区と包括的連携協定を締結
2016(平成28)年	経営学部国際ビジネス学科 開設 沖縄県読谷村と包括連携協定を締結 愛知県日進市と包括的連携協定を締結
2017(平成29)年	人間学部を人間健康学部に変更
2018(平成30)年	新しいブランドシンボルとコンセプトフレーズを制定
2021(令和3)年	長野県売木村と包括連携協定を締結 長野県阿南町と包括連携協定を締結
2023(令和5)年	東邦学園創立100周年 東邦学園・名東区・同区体育協会・同区スポーツ推進委員連絡協議会・同区小中学校校長会の五者連携協定を締結
2025(令和7)年	経営学部ビジネス学科、コミュニケーション・デザイン学科を開設



初代学長
丸山 恵也
2001年4月
～2007年3月



2代学長
山際 完治
2007年4月
～2011年3月



3代学長
成田 良一
2011年4月
～2015年3月



4代学長
榊 直樹
2015年4月
～2021年3月



5代学長
鵜飼 裕之
2021年4月～

「21世紀初の開学」校の一つとして、2001年4月に「東邦学園大学」が開学してから25年が経ちます。経営学部地域ビジネス学科だけの単科大学でした。建学の理念は、東邦学園の



創立者、下出民義翁の理念を受け継ぎ「真面目な人格者の育成」としました。

6年後の2007年には現在の「愛知東邦大学」に改称しました。同時に人間学部(現・人間健康学部)が増設されました。2014年には第3の学部として教育学部が開設され、人間学部に置かれていた子ども発達学科を引き継ぎました。2016年度からは経営学部国際ビジネス学科が新設され、これで3学部4学科体制となりました。

地域を重視する方針に基づき、教育学部の学

生たちは、のちに「サービス・ラーニング」と名付けられる名東区内の小中学校でボランティア活動を始めました。地元のJリーグ名古屋グランパスとは、ビジネスコンテストを通じて長年連携しています。

2018年度からは現在も使われている新たなブランドコンセプト「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」を打ち出し、2本のオレンジ色ラインのブランドシンボルも制定されました。小規模大学ならではの学生一人ひとりの可能性を大事にするという「リブランド」を高らかに宣言したのです。

一番星として輝いたのは強化指定ではない軟式野球部です。2011年に初出場した全日



本学生軟式野球選手権大会で全国優勝を果たし



ました。小さな大学に大きな自信が芽生えました。

強化指定クラブの中で今一番輝いているのは女子

サッカー部です。インカレは9回出場し、昨年度は全国3位という強豪に成長しました。男子サッカー部は東海学生リーグ1部、女子バスケットボール部は東海学生リーグ2部、硬式野球部は愛知大学野球連盟2部です。吹奏楽団は東邦高校と組んだTOHO MARCHING BANDとして関西万博や海外での演奏も経験しました。

こんな輝きを見せたこともありました。2011年の東日本大震災の被災地支援ボランティアの参加率(学生1000人あたりのボランティア数)は18.7%で、愛知東邦大学が全国1位となったのです。また、全国の348チームが参加した学生たちのビジネスコンテストで、経営学部の女性チームが決勝に進出する快挙もあ

りました。

着実な歩みを進めていた大学でしたが、そこに暗い影を落としたのが新型コロナウイルス

のパンデミックでした。2020年度には卒業式と入学式が中止になりました。授業をはじめ、大学祭「和丘祭」などさまざまな活動が中止やオンライン開催になりました。現在はやっとコロナ禍を脱しキャンパスにも若やいだ歓声が戻ってきています。

25年の歴史を刻んだ愛知東邦大学。これまでに5461人が卒業し社会に巣立っています。これからも学生たちは自らのオンリーワンを探



し、見つけ、その輝きを追及していくことでしょう。本学もオンリーワンの大学を目指して進み続けます。

丸山先生を偲んで－初代学長の教育理念

経営学部長・教授 深谷 和広

丸山恵也(まるやま よしなり)先生は、4月10日、91歳でお亡くなりになりました。大学に連絡があったのは、4月30日、すでに葬儀も終えた後でした。気を遣わせたくないという配慮と聞きました。丸山先生らしいと思いました。

丸山先生は2001年4月東邦学園大学(現：愛知東邦大学)の設立の準備のため、前年桜咲くころ本学に就任されました。私も助教授として末席に名を連ねておりました。先生の専門とする学問分野は経営学であり、特に日本の自動車産業における生産システムや、労働者の人間的な働き方の研究で高い業績を残されていました。

2000年代初頭は高等教育の歴史において最も激しい転換期(大学改革の時代)を迎えていました。それは「大学設置の自由化」と「急激な少子化」の2つの要因でした。当時の社会背景を踏まえ、丸山先生は初代学長として大学の開

学式辞や教育実践の場において「偏差値や効率のみにとらわれない、人間主体の教育」を訴える発言をされました。

著作物を読むと、学生の潜在能力を信じ、一方的な知識供与ではなく個々の成長を促す「種をまく人」としての大学教師像を示されています。ステレオタイプな若者批判を否定し、学生の自己成長の可能性を信じて寄り添う「人間主体」の教育観を明確に主張されていました。

今年創立25年を迎えた本学の教育理念や教育実践の骨組みとして、丸山先生の教育論は現在も明確に残されていると感じました。計報をお聞きし、改めて、現在の社会状況を踏まえて、当時本学が高らかに提唱した教育理念を再認識し、新たな本学の教育実践を推進することを決意しました。

ご冥福をお祈りします。



Ⅱ 高校／ニュース・トピックス

生徒会が「人権賞」を受賞

生徒会正顧問 古田 知子

東邦高校生徒会は愛知県弁護士会より2026年度の「人権賞」を受賞しました。「人権賞」とは、人権擁護のための優れた活動を行っている個人や団体を表彰し、その活動を応援する趣旨で1982年に設けられたものです。これまで様々なNPO法人や企業、個人等に送られてきましたが、生徒が受賞するのは初めてのことです。

東邦高校では1995年に「平和の碑」を建立して以来、毎年「慰霊の日」を行い、空襲の犠牲となった朝鮮留學生の遺骨を祖国に返還する運動や、国会議員を文化祭に招いて自衛隊のイラク派兵について議論する企画等を行ってきました。2014年には「名古屋空襲慰霊の日制定を求める要望書」を市長に提出。10年の時を経て「なごや平和の日」が制定されました。制定後も、生徒たちは「平和実行委員会」と名称を改め、戦争体験者に聞いたお話を朗読やライブペインティング、絵本や演劇等さまざまな方法で伝え続けてきました。

この「人権賞」には、平和の活動に関わるすべての高校生に向けた力強いエールが込められています。今後も、「高校生だからこそできる平和活動」を続けていきます。



1年生学級合宿

三つの『あ』と、物語のはじまり

1年生学年主任 山田 剛司

1年生は、4月22日から24日にかけて一泊二日の学級合宿を実施しました。

今年度はこの合宿を、「自分の行動によって、自分の物語を動かし始める機会」と位置づけ、あいさつ・あすへの準備・ありたい自分——という学年方針である三つの『あ』を軸に取り組みました。日々の行動や判断を、この三つの『あ』に立ち返って考えることを、合宿全体を通して大切にしました。

出発前の校長講話では、東邦高校で学ぶ生徒一人ひとりに目指してほしい三つの生徒像が語られました。生徒たちは、自分はどのような高校生でありたいのか、そのために今どのような行動を選ぶのかを、改めて考える時間となったと思います。

合宿中は、クラスでのレクリエーションやホームルーム討議を通して、先生や仲間と関わりながら互いを知り、集団の中での自分の役割について考え、人間関係を深めていきました。意見の違いに戸惑いながらも折り合いをつけようとする姿や、仲間のために自分にできることを探し、行動に移そうとする姿が多く見られました。

また、陶芸や絵付け体験、恩師への手紙、高校生活への決意文の作成にも取り組み、自分自身と静かに向き合う時間となりました。一人ひとりの選択と行動が積み重なり、それぞれの物語が少しずつ進んでいく。その確かな第一歩となる合宿でした。



2年生遠足 多くの「新体験」得る

2年生学年主任 後藤 洋輔

2年生の遠足は4月22日でした。行先は、妻籠宿・馬籠宿、明治村、日間賀島、篠島、竹島水族館・竹島の5方面に分かれ、それぞれの魅力に触れる充実した一日となりました。天候にも恵まれ、屋外での活動を通して、生徒たちは多くの学びと刺激を得ることができました。

遠足の目的の一つは「仲間との親睦を深める」ことです。バスの車内での会話や現地での散策、昼食や買い物などを通じて、新しい仲間やクラスメイトとの交流が一層深まった様子が見られました。

それぞれの行先では、普段の学校生活では味わうことのできない体験や、観光地ならではの人の関わりを通して、多くの「新体験」を得ることができました。今後も、生徒たちとともにこうした経験を積み重ねながら、成長を支えてまいります。引き続き、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

3年生遠足 春の伊勢路にて

3年生学年主任 平岡 広子

3年生は4月22日、嵯峨野・嵐山方面(6クラス)、伊勢神宮(10クラス)、宇治平等院(3クラス)の3コースに分かれて遠足を実施しました。薄曇りではありましたが、過ごしやすい気候にも恵まれ、心地よい一日となりました。

私は伊勢神宮を訪れました。五十鈴川にかかる宇治橋を渡り、全員で正殿まで歩き、参拝を行いました。その後は班別行動となり、生徒たちはおはらい町やおかげ横丁で、赤福(氷)や伊勢うどんを味わうなど、思い思いの時間を楽しんでいました。

また、バス内ではレクリエーションを通してクラスメイトの意外な一面を知る機会となり、笑顔あふれる時間となりました。クラス単位での遠足は今回が最後になるかと思います。そう考えると感慨深いものがあります。

伊勢神宮では、20年に一度の式年遷宮(2033年)に向けた準備が始まったばかり。生徒たちもまた、それぞれの将来に向けた歩みを進めています。今後も保護者の皆様とともに、生徒たちの成長を支えてまいりたいと考えております。引き続き、温かく見守っていただけますと幸いです。



国公立大学現役合格50人！

進路指導主事 保坂 秀和

今春(2026年度)入試において、東邦高校の国公立大学現役合格数が50人と過去最多となりました。本校は国公立大学への進学数を伸ばすことを一つの目標に掲げています。2013年度に卒業1期生を輩出した文理特進コースは、国公立大学への進学を考えてつくられたコースで、「国公立現役合格」を目標に掲げ、本校の進学実績を支えてきました。

また、同時期に発足したチャレンジコース(現：文系選抜コース)やサイエンスコース(現：理系進学コース)にも国公立大学を第一志望とする生徒が多く在籍するようになり、これらのコースを中心に国公立大学の現役合格は右肩上がりです。推移してきています。

ご存じの通り、国公立大学の受験は幅広い分野を深く学ぶ必要があります。広く、深く学ぼうとする意欲的な生徒が増加することは、教育の現場において大変喜ばしいことであると感じています。今後も教職員一丸となって、意欲的に学ぶ生徒を全力でサポートしていきたいと考えております。引き続き、ご支援、ご声援をいただきますよう、お願い申し上げます。

大学／ニュース・トピックス

2025年度卒業生進路

動いた経験は、確実に残る

学生・キャリア支援課 古田 智子

2025年度は296名が本学を巣立ちました。就職希望者に対する就職率は99.2%と高い水準を保っております。日頃より格別のご支援を賜る保証人の皆様、本学園を支えてくださる皆様に、厚く御礼申し上げます。学生が社会へ歩み出せます背景には、折にふれ声をかけ、学びと成長を見守ってくださる皆様のお力添えがあります。

新卒採用市場は、若年層人口の減少を背景に「売り手市場」が続いております。優良企業の倍率は依然として高いものです。「選択肢が多すぎて迷う」「早期化に焦る」という難しさも、学生と接する中で実感しております。

キャリア支援センターは、就職率と並び「進路決定先満足度」を大切にしております。自ら定めた目標へ努力の道筋を辿り掴み取った結果にこそ、喜びは宿ります。卒業時の調査では、支援を有効と感じた学生ほど満足度も高い、という相関が見られました。

入学直後に「就職が不安」と声をかけられるたび「今の一瞬を大切に」とお伝えしています。学業、ゼミ、部活動。経験の一つひとつが学生自身を創ります。ある卒業生は「自ら動いた経験は確実に残る。パズルのピースがある時重なり見たことのない景色が見えた」と語ってくれました。学生の歩みは、Webコンテンツ「TOHO Stories」でご覧いただけます。卒業生に在学中の様子を伺った記事です。QRコードからアクセスし「就職活動」のタブから記事をご覧ください。



本学園は、大正12(1923)年、創立者・下出民義が私財を投じた東邦商業学校に始まります。事業を興した民義が晩年に見据えたのは、地域を担う「人」を育てることでした。建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」は、一世紀変わらぬ本学の背骨です。一人ひとりが笑顔で卒業式を迎えられるよう、その精神に恥じぬ伴走を重ねてまいります。

「TOHOアカデミック・フェスタ」開催

愛知東邦大学地域創造研究所長 経営学部教授 上條 憲二

「大学は学生だけでなく、地域の皆さまが『共に育つ場(共育の場)』、アカデミズム(学)とエンターテインメント(楽)が融合したフェスタをしよう!」、そんな熱い思いからこれまでにない試みを実施しました。

2026年3月14日、「TOHO アカデミック・フェスタ2026」が開催されました。愛知東邦大学は地域貢献活動について「地域が教室」というクレド(本学ならではの「信条」「誓約」)を掲げています。地域の皆さまを対象にした今回のイベントはその実践活動の一環です。



当日はスチューデント・コモンズにおいて「“共育の街”を目指して」をテーマとしたシンポジウム、また、体育館を交流の場としていくつもの体験イベントを行いました。夕刻には今や地域では名物となった「イルミネーション」が校舎を煌びやかに彩りました。

愛知東邦大学は、キャンパスの中だけで完結しない大学です。地域とともに人を育てる大学です。そして、街と大学が共に育つ“共育の街”をつくっていきます。

地域と学生をつなぐ介護予防の取り組み

人間健康学部教授 松永 昌宏

人間健康学部では、2025年度から名古屋市名東区北部いきいき支援センターと連携し、名東区内で介護予防に関するさまざまな活動に取り組んでいます。

2025年11月に名東区役所講堂で開かれた「健康・介護予防フェスタ」には本学が初参加し、健康状態を“見える化”する測定機器を出展しました。会場には多くの来場者が訪れ、機器の前には順番待ちができるほどの盛況ぶりで、地域の皆さんの健康への関心の高さを実感しました。

さらに2026年5月には、第一興商さんと協働した音楽レクリエーション、愛知医科大学の川越講師と協働した視覚認知運動教室を開催し、松永ゼミの学生も運営に参加しました。3年生の山川稀琥さんは「学生と高齢者が触れ合える機会があるのは、自分にとってとても有益」と話し、地域の方々との交流は学生にとっても大きな学びの場になっています。これからも地域に寄り添いながら、本学らしい地域連携の活動を広げていきたいと考えています。



アニメとAIでひらく未来の教室・相談室

教育学部教授 伊藤 龍仁

A棟3階にある「ハピ声スマイル研究室」では、子どもの笑顔や声を大切にしながら、子どもの権利擁護と幸福感を支える教育・研究活動に取り組んでいます。筆者はこれまで、長年にわたる子どもの権利擁護に関わる実践と普及啓発に取り組み、日進市子どもの権利擁護委員としてのご縁から、市内の学校教職員や相談員を対象とした研修などを行ってきました。

その中で、日進市学校教育課との打ち合わせから生まれたのが、子どもたちに権利をわかりやすく伝えるアニメ動画「シエラと学ぶ子どもの権利擁護」シリーズです。この動画は、今年の1月から日進市の学校図書館アーカイブに公開され、週間トップリーダーにもなるなど、多くの子どもたちに届き始めています。

現在、研究室ではさらに、常駐型AI“αシエラ”の開発を進め、大学ゼミ生や来室者との対話体験にもAIを導入しはじめています。アニメ、AI、ホログラム表現を組み合わせながら、子どもや学生が安心して学び、声を出せる「未来の教室」「未来の相談室」を探究しています。今後は、教員や専門職との協働型AIシステムの開発へとつなげていきたいと考えています。



Ⅱ 高校／クラブ活動

全国大会を目指して

サイクリング同好会部長 3年 山口 隼平

サイクリング同好会は、真剣にレースや大会に取り組む人から純粋に走ることを楽しむ人まで、さまざまなメンバーが日々活動しています。

2026年3月に開催された「全国高等学校選抜自転車競技大会」には、本クラブから1人が出場しました。自己ベスト更新とはならず、予選を通過できなかったものの、全国の緊張感や強豪の実力を肌で感じた非常に充実した大会となりました。

また5月の愛知県高校総体には3人が出場し、2人が3位・4位という好成績を収めて東海高校総体への切符を手にすることができました。東海高校総体でも全力を尽くし、再び全国の舞台へ進めるよう励んでまいります。

同好会という枠組みでありながら、このような公式大会へ出場できたのは、学校生活を温かく支えてくださる保護者の皆さまや先生方のおかげです。心から感謝申し上げます。

(山口隼平君は東海高校総体でケイリン第5位となり、インターハイ出場を決めました)



テニスの神様が微笑む

硬式テニス男子部顧問 後藤 洋輔

県内有数の激戦区として知られる名北地区予選を勝ち抜き、最後の一枠で県大会出場を果たしました。名北地区は、地区予選ベスト4がそのまま県大会ベスト4へ進出するほど高いレベルを誇り、県大会でも多くの学校が上位進出を果たしています。そのような中、本校は実力校との接戦を制し、県大会への切符を手にししました。

本校の部員の約9割は高校からテニスを始めた選手たちです。「テニスが好き」という気持ちを原動力に、日々真剣に競技へ向き合い、努力を積み重ねてきました。3年生の世代は、1年時の新人戦では名大附属高校に、2年時のインターハイ予選では名東高校に惜敗するなど、悔しい経験も重ねてきました。しかし今回、その両校との再戦を制し、大きな成長を見せてくれました。



愛知県大会でも勢いは止まらず、見事ベスト16という成績を収めました。続くベスト8決定戦でも激戦を繰り広げ、あと一歩及ばず敗れましたが、過去25年以上をさかのぼっても例のない快挙となりました。

また、最後の試合では他校の選手や保護者の方々も本校の応援に加わってくださり、選手たちの姿勢や努力が周囲にも良い影響を与えていたことを実感しました。努力を重ねた選手たちに「テニスの神様」が微笑んだと感じた大会でした。

自分たちにしか鳴らせない音を求めて

軽音楽部顧問 中村 健太郎

軽音楽部は2015年に部に昇格し、年3回の定期演奏会や文化祭、地域のイベントを中心に活動しています。現在は部員数も増え、個性豊かなバンドが、お互いをリスペクトし合い「音を楽しむこと」を軸に日々練習に励んでいます。

今年度は、軽音楽部全体で「オリジナル曲の制作」という新たな挑戦をスタートさせます。私たちが目指すのは、単に演奏が上手いという表面的な技術ではなく、「自分たちが何を鳴らし、何を伝えたいのか」を深く追求し、形にする力です。生徒たちは音楽理論という確かな知識を学びつつも、型にはまることなく、自らの耳と直感を信じて正解のない音楽の世界に挑んでいます。

仲間と意見を交わしゼロから楽曲を創り上げ、等身大の想いをステージ



で表現することは簡単ではありません。しかし、自らの感性を信じて真摯に音と向き合う情熱が部員たちを大きく成長させています。聴き手に届く、自分たちにしか鳴らせない音を目指し、誇りを持って活動してまいります。今後とも温かい応援をお願いいたします。

挑戦を続ける卓球部の現在地

卓球部顧問 岩澤 大介

卓球部は、愛知県大会での勝利を目標に掲げ、日々の練習に励んでいます。

昨年度秋には男女ともに愛知県新人体育大会(学校対抗)へ出場し、着実に実績を積み重ねています。今年度春には、女子が愛知県総合体育大会名北支部予選会(学校対抗)で第3位となりました。

現在は新チームとなり、名北支部予選会での優勝を目標に練習に取り組んでいます。勝利を目指すことはもちろん、「良きプレーヤーである前に良き人であれ」をモットーに、周囲から応援される部活動を目指しています。今後とも皆様の温かいご声援をよろしくをお願いいたします。



Ⅱ 大学／クラブ活動

キャップ野球って知ってますか？

キャップ野球サークル代表 石黒 宙



「キャップ野球」をご存じですか？ 普通のペットボトルの蓋(キャップ)をボール代わりに用いた野球型のスポーツです。1チーム5人で、守備は投手・捕手・守備に2人、残りの1人は指名打者。野球の半分の距離から放たれる速球は、体感で150km/hにもなります。さらにはホームベースの端から端まで曲がるスライダーや、手元でくい込んでくるシュートなど、野球でも見た事ないような変化球が誰でも簡単に投げられます。それをバット(長さ80cm、プラスチック製)で弾きます。

大会も多くあり、私たち「愛知東邦キャップ野球サークル」も今年度から5人が揃い、リーグ戦に参加しております。高校生プレーヤーや、女性プレーヤーも活躍していますので、年齢や性別の壁を超えて楽しむことができるのも、魅力のひとつです。

自由な雰囲気練習から試合まで行っておりますので、興味がある方は是非体験にお越しください!! 毎週水曜、金曜日に大学の体育館で活動しています。



英会話や多様な文化を学ぶ

多文化friendsサークル代表 雪原 アリネ

「多文化friendsサークル」は、大学をより多様性のある場所にし、新しい友人を作りたい人たちが安心してつながれる居場所を作ること为目的としたサークルです。

主な会員は現在7人で、週に2回活動を行っています。1回は英語で交流を行い、毎週テーマを決めて楽しく会話をしています。リラックスした雰囲気の中で、おしゃべりを楽しんでいます。

もう1回は、日本語で多文化交流を行う活動です。留学生や日本人学生と一緒に、それぞれの国の文化や価値観を紹介し合いながら、お互いの理解を深めています。また、大学の国際交流イベント(カンボジアフェアなど)のお手伝いや、BBQを楽しんだり、JICAや名古屋国際センターなど学外の多文化イベントにも参加しています。

新しい文化や言語との出会いは、新しい価値観との出会いでもあります。そして、新しい価値観は、多様で豊かな社会につながっていきます。だからこそ、私たちは多文化交流を通して視野を広げ、多様性への理解を深めることを大切にしています。少しでも興味のある方、新しい友人を作りたい方は、ぜひお気軽にご参加ください!



活動日時・場所はサークル公式Instagram(@tabunka.friends)をご確認ください。

コロナ禍に負けないぞ！青春留年生



全力全玉代表 経営学部3年 倉敷 京幸

青春留年生——これが室内スポーツサークル「全力全玉」のサークルコンセプトです。コロナ禍で味わえなかった青春をもう一度、という意味と、ずっと子供心を忘れないようにという意味を込めました。

私たちの世代は中学・高校時代に部活の大会や学校行事がなくなったり、変更があったりと新型コロナウイルスによる大きな影響を受けました。多分この悔しかったり、悲しかったりした気持ちは忘れることができません。だからこそ、このサークルでもう一度青春を味わいたいと思っています。

活動は鬼ごっこ、ドッジボール、缶蹴りなど小学生にやっていたものから、バスケットボール、バレーボールなど高校時代の体育でやっていたものまで幅広く行います。このサークルでは、運動が得意という人よりも運動が好きな人を集めて活動しています。年齢、性別すべて問いません。いろいろな人と交流して皆で運動していきましょう。

また9月14日に「全力全玉」が主催して天白スポーツセンターで体育祭を開きます。目的は交流と思い出作り、開く理由は面白そうだから。私たちと一緒に体育祭をやりませんか？今年はWBC、W杯、そして名古屋でアジア大会・アジアパラ大会とスポーツが主役の年です。みんなで名古屋をスポーツの力で盛り上げましょう！

映像制作サークル「エポック」活動紹介

「エポック」代表 経営学部2年 山田 真弥

私たち映像制作サークル「エポック」は、今年できたばかりで、今はメンバー5人で活動しています。映像制作を通じて地域や大学の魅力を発信し、学生一人ひとりが実践的なクリエイティブスキルを身につけることを目的に活動しています。

企画立案から撮影、編集、公開までを学生主体で行い、実際の現場に近い経験を積めることが特徴です。でも映像制作の経験がなくても安心してください。カメラや編集ソフトの使い方を学びながら、チームで作品を制作することで、企画力・表現力・コミュニケーション能力を身につけることができるからです。

これまで愛知東邦大学のオープンキャンパスPR動画の制作に取り組み、大学の魅力を高校生や保護者へ分かりやすく伝える映像づくりを行いました。また、映像制作だけでなく、キャラクターやIP（知的財産）を活用した新たなコンテンツ制作にも挑戦しており、現在はオリジナルキャラクターの開発を進めています。

「エポック」は単なるサークル活動にとどまらず、「学生だからこそできる挑戦」を大切にしています。これからも仲間と共に挑戦を続け、愛知東邦大学から新しいクリエイティブを発信していきます。



本年度の学園人事構成は下記の通りです。

◆理事・監事・評議員

理事 長：榊 直樹
理事 事：鵜飼 裕之、大上 雄示、船木 恵一、
齊藤 卓哉、藤本 紀子、大河 哲男、
加藤 明彦、丹羽 哲也
監事 事：長沼 均俊、二村友佳子
評議員 員：尚 爾華、袴田 克彦、若山 大樹、
古田 知子、宮地 和徳、森川 早苗、
上瀬 正寿、鵜飼 聡志、岡部 年彦、
杉崎 正美、元松 茂、若林 努

◆法人事務局

法人事務局長：長沼 英樹
法人事務局次長：袴田 克彦
新たな百年事務局・広報室事務局長：長沼 英樹
内部監査室長・特命参与：細江 保司

※以下大学役職兼ねる

総務課 長：池田 暁生
総務課法人担当課長：袴田 克彦
経理課 長：袴田 克彦
経理課長補佐：村松 芳紀
学術情報課長：山田 智代
地域連携課長：貫名 正樹
地域連携課長補佐：白谷 峰人

◆大学

学 長：鵜飼 裕之
副学 長：船木 恵一
学 長 補 佐：杉谷 正次
〃：新實 広記
経営学部長：深谷 和弘
経営学部長補佐：手嶋 慎介
ビジネス学科長：手嶋 慎介
コミュニケーション・デザイン学科長：谷口 正博
人間健康学部長：尚 爾華
人間健康学部長補佐：西尾 敦史
教育学部長：堀 建治
教育学部長補佐：水野 伸子
学術情報センター長：船木 恵一
地域・産学連携センター長：谷口 正博
教職支援センター長：鈴木 直政
保健・学生相談センター長：渡辺 弥生
キャリア支援センター長：手嶋 慎介
国際交流センター長：宮城 エステバン
地域創造研究所長：上條 憲二
入試委員長：宮本 佳範
教務委員長：三好 弥生
学生委員長：新實 広記
自己点検・評価委員長：堀 篤実
人事委員長：鵜飼 裕之
研究活動委員長：鵜飼 裕之
研究倫理委員長：伊藤恵美子

FD・SD委員長：三好 弥生
広報委員長：原 京二
IR推進委員長：吉村 美路
総務委員長：伊藤 数馬

◆大学事務局

事務 長：藤井 玲子
事務次 長：富田 敦史
〃：三輪 哲也
入試広報課長：三輪 哲也
入試広報課長補佐：河合 厚志
教務課 長：久保 雄大
教職担当課長：富田 敦史
学生・キャリア支援課長：松井 慶太
学生・キャリア支援課学生支援担当課長：二宮加代子
学生・キャリア支援課長補佐：古田 智子
国際交流課 長：二宮加代子
地域連携課地域創造研究所担当課長：新村 健

◆高等学校

校 長：大上 雄示
教 頭：野崎久美子
〃：吉山奈緒子
校務部長：志水 和史
教務部長：宮田 賢二
生活指導部長：加藤 禎大
広報企画室長：小林 豪紀
進路指導主事：保坂 秀和
国際交流室長：伊藤 保憲
メディア情報センター長：山本 俊秋
保健指導主事：小寫 大介
生徒会正顧問：古田 知子
学年主任第1学年：山田 剛司
学年主任第2学年：後藤 洋輔
学年主任第3学年：平岡 広子
学科主任美術科：小塚 康成
統括責任者世界探究科国際探究コース：伊藤 保憲
統括責任者文理特進コース：大岡亜希子
統括責任者人間健康コース：木下 達生
教科主任 国語科：畑中 千佳
〃 社会科：畔野 友紀
〃 数学科：松瀬 光
〃 理科：森嶋 悠人
〃 保健体育科：木下 達生
〃 芸術科：前橋 瞳
〃 英語科：加藤 強
〃 家庭科：田中 瑞穂
〃 情報科：内田 百花

◆高校事務部

事務部長：平上 純一
事務部副部長(広報企画室担当)：阪口 将史
事務部副部長：貫名 正樹

2025年度の寄付金受け入れ状況

2025年度のご寄付は、皆様から総額35,919千円をいただきました。誠にありがとうございました。一般寄付(使途を限定しない寄付)、特別寄付(使途を限定した寄付)、それぞれのご寄付に込められた趣旨を十分踏まえつつ、大学と高校の教育活動支援に充てさせていただきました。内訳は以下の通りです。

◆学園に対する寄付について(1,225千円)

大学・高校に応分に配布し、教育活動経費に充当しました。

◆愛知東邦大学・東邦高等学校に対する寄付について(28,293千円)

大学後援会や高校PTA、夫々の卒業生からのご寄付を、大学・高校の教育活動経費に充当しました。

◆周年事業に対する寄付について(6,401千円)

昨年度までの期間中、多くのご寄付をいただきました。改めてお礼申し上げます。

東邦学園「WE ARE TOHO募金」 愛知東邦大学新キャンパス建設基金へのご寄付のお願い

「WE ARE TOHO!」。高校硬式野球部の試合開始のサイレンと同時に始まる高大合同学園バンド「TOHOマーチングバンド」の勇壮な演奏に、応援団が心を合わせて力強い声を上げる…選手たちに勇気を与え、応援団も選手も「東邦の一員でよかった!」という気持ちを高めあえる言葉、それが「WE ARE TOHO!」です。東邦学園100周年ブランドシグネチャー「WE ARE TOHO はばたき 新時代へ」にも用いられ、今では学園の一体感を表現するスローガンにもなっています。

2023年に100周年を迎えた東邦学園ですが、愛知東邦大学の前身である東邦短期大学が2025年に60周年を迎え、今年度は愛知東邦大学が開学25周年を迎えました。新たな歴史を刻みながら、東邦学園は着実に次なる100年に歩みを進めています。

そしていよいよ来年度、「愛知東邦大学 新キャンパス建設」がスタートします。平和公園に隣接するという地の利を活かし、緑との一体化、地域の皆様との共生をコンセプトに、大学関係者だけでなく、地域の皆様や高校生をはじめとして、多様な皆さまの交流・共生の拠点となる施設を目指しています。

東邦キャンパスをご覧の皆様におかれましては、ぜひ東邦学園に「WE ARE TOHO!」とご声援を頂戴し、「愛知東邦大学 新キャンパス建設基金」に、どうかご寄付・ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

◇寄付金額

個人：1口 5千円、法人：1口 10万円

複数口のご協力をお願いできれば幸いです(1口未満のご寄付もありがたくお受けいたします)。

◇お手続き・申込方法

学校法人東邦学園の公式Webページにある「ご支援のお願い」の「寄付のお申し込み方法」にある専用入力フォームからお申し込み下さい。



募金に関する学園Webページ：<https://www.toho-gakuen.jp/donation>